

IV 感染症予防

1. 感染症予防及び防疫

根拠法令等	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法） 予防接種法
健康さくら 21（第 2 次） 【改訂版】目標値 （市の現状）→（目標値）	<ul style="list-style-type: none"> ・ BCG を 1 歳までに受ける人の割合 101.4% → 100% ・ 1 歳 6 か月までに四種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ）の予防接種（1 期初回）を終了している人の割合 97.2% → 増加 ・ 1 歳 6 か月までに麻しん風しんの予防接種を終了している人の割合 88.9% → 増加

《目的》

近年、新たな感染症の出現や既存感染症の再興などが見られ、予防対策の充実が求められている。感染力の高い新型感染症については、市民の健康を脅かす 1 つの要因となっており、市民を感染症から守り、健康的に暮らせるよう、未然防止に努めるとともに、発生に対しては迅速で的確な対策を講じることが必要となる。そのためには、各年代にあった定期的・計画的な予防接種を行い効果的な予防接種事業の推進に努めるなど、感染症の発生予防やまん延防止を進めながら、公衆衛生の向上を図るための予防接種の重要性や知識、予防対策を広く市民に広報・啓発を行い、感染症流行時に迅速に対応できる体制づくりを進めることが必要である。

《予防接種実施時期》

令和 3 年 4 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日（実施日時については、各医療機関が定める）

※高齢者インフルエンザは、令和 3 年 10 月 1 日から令和 3 年 12 月 31 日（令和 3 年度に限り、令和 4 年 1 月 31 日まで延長）

《予防接種実施場所》

・市内の 76 個別予防接種協力医療機関（令和 4 年 3 月末時点）

※医療機関により実施している予防接種の種類が異なる。

・千葉県内相互乗り入れ制度協力医療機関等

《予防接種周知方法》

乳幼児

- ・出生届出又は転入届出後、予防接種の予診票つづり又は予診票等を個別通知。
- ・市内の協力医療機関を、予診票同封の案内文、健康カレンダー、ホームページに掲載。

学童

- ・対象となる年齢の誕生月の末日に予診票等を個別通知。
- ・市内の協力医療機関を、予診票同封の案内文、健康カレンダー、ホームページに掲載。

※子宮頸がん予防接種については、予診票の自動発送はせず、接種希望者のみに接種の有効性とリスク等を説明した上で予診票を発行。

高齢者

- ・65 歳以上の対象者に、予診票等を個別通知。
- ・60～64 歳の対象者のうち希望者には母子保健課に連絡をもらい、予診票を個別通知。
- ・市内の協力医療機関を、予診票同封の案内文、ホームページに掲載。

成人

- ・昭和47年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性には、令和元年度に風しん抗体検査・予防接種クーポン券を個別通知済だが、希望があればクーポン券を再発行。

《普及啓発概要》

【個別通知】

	対象者	内容	時期	回数
予診票等発行 (75回)	出生者	予診票つづりと案内文	毎月	12回(847通)
	転入者	予診票と案内文	随時	12回(625通)
	日本脳炎2期 対象者 (9歳)	日本脳炎2期案内文 (ワクチンの供給状況により、予診票は、令和4年4月頃に送付する旨の内容)	毎月	12回 (1,374通)
	二種混合 対象者 (11歳)	二種混合予診票と案内文	毎月	12回 (1,377通)
	高齢者インフルエンザ 対象者 (満65歳以上)	予診票と案内文	9月～ 12月	25回 (56,925通)
	高齢者肺炎球菌 対象者 (年度内に65歳になる方)	予診票と案内文	4月	1回 (2,133通)
	(年度内に70歳・75歳・ 80歳・85歳・90歳・95歳、 100歳以上になる方)	案内文	4月	1回 (4,047通)

	対象者	内容	時期	回数
接種等勧奨 (210回)	麻しん風しん (MR) 1期 未接種者 (令和元年6月1日～ 令和元年5月31日生まれ)	麻しん風しん (MR) 1期勧奨 ハガキ	2歳 誕生月 前々月	12回 (29通)
	麻しん風しん (MR) 2期 未接種者 (平成27年4月2日～ 平成28年4月1日生まれ)	麻しん風しん (MR) 2期勧奨 ハガキ	7月 2月	2回 (1,057通) (202通)
	日本脳炎 未接種者 (18歳) (平成15年4月2日～ 平成16年4月1日生まれ)	日本脳炎経過措置勧奨ハガキ	6月	1回 (834通)
	(平成21年4月1日～ 平成22年3月31日生まれ) (12歳)	日本脳炎経過措置勧奨ハガキ	4月～ 3月	12回 (723通)
	二種混合 未接種者 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日生まれ) (12歳)	二種混合勧奨ハガキ (10月～3月については、日本 脳炎未接種者 (12歳) と同時に 勧奨したため、勧奨通数は減少)	4月～ 3月	12回 (468通)

対象者	内容	時期	回数
高齢者肺炎球菌 未接種者 (年度内に 65 歳になる方)	高齢者肺炎球菌お知らせハガキ	1 月	1 回 (1, 235 通)
風しんの追加的対策 抗体検査 未実施者 (昭和 37 年 4 月 2 日～ 昭和 54 年 4 月 1 日生まれの男性)	風しん抗体検査・予防接種 勸奨ハガキ	3 月	1 回 (16, 430 通)
予防接種 未接種者 (昭和 37 年 4 月 2 日～昭和 54 年 4 月 1 日生まれの男性のうち、抗体検 査結果が定期接種対象の方)	麻しん風しん (MR) 5 期 勸奨ハガキ	3 月	1 回 (204 通)
1 歳 1 か月児	麻しん風しん (MR) 1 期、 水痘の接種勸奨ハガキ (おたふ くかぜワクチン接種費用一部助 成制度についても記載)	4 月～ 3 月	12 回 (625 通)
4 か月乳児相談 対象者	BCG の案内文 (案内文に同封)	4 月 ～3 月	12 回
1 歳 6 か月児健診 対象者	予防接種実施状況確認リーフレ ット (問診票に同封)	12 月 ～3 月	12 回
2 歳半幼児歯科健診 対象者	予防接種実施状況確認リーフレ ット (問診票に同封)	4 月 ～3 月	12 回
3 歳幼児歯科健診 対象者	予防接種実施状況確認リーフレ ット (問診票に同封)	4 月 ～3 月	12 回
4 か月乳児相談・1 歳 6 か月児健診・ 3 歳児健診	「遅らせないで！子どもの予防 接種と乳幼児健診」リーフレッ ト (問診票に同封)	4 月～ 3 月	12 回
4 か月乳児相談、1 歳 6 か月児健診、 3 歳児健診 来所者	保健師相談において未接種者へ 勸奨	4 月 ～3 月	96 回

【広報紙・ポスター・ホームページ他】

種類	内容
麻しん風しん (MR) 予防接種	<ul style="list-style-type: none"> ・こうほう佐倉に掲載 (2 回) ・ポスターを、市内保育施設 (44 か所)、市内幼稚園 (7 か所) に掲示 ・ホームページに掲載
日本脳炎予防接種	<ul style="list-style-type: none"> ・こうほう佐倉に掲載 (1 回) ・ホームページに掲載
高齢者インフルエンザ 予防接種	<ul style="list-style-type: none"> ・こうほう佐倉に掲載 (3 回) ・ポスターを市内協力医療機関 (73 か所) に掲示 ・ホームページに掲載
高齢者肺炎球菌予防接種	<ul style="list-style-type: none"> ・こうほう佐倉に掲載 (4 回) ・ホームページに掲載

風しんの追加的対策	<ul style="list-style-type: none"> ・こうほう佐倉に掲載（3回） ・ホームページに掲載
おたふくかぜワクチン 接種費用一部助成制度	<ul style="list-style-type: none"> ・こうほう佐倉に掲載（1回） ・ポスターを、保健センター等各公共施設（29か所）、市内保育施設（44か所）、市内幼稚園（7か所）に掲示 ・ホームページに掲載
風しんワクチン 接種費用一部助成制度	<ul style="list-style-type: none"> ・こうほう佐倉に掲載（1回） ・ホームページに掲載
その他感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・蚊・ダニ媒介感染症予防ポスターを、保健センター等各公共施設（33か所）に掲示 ・狂犬病、エボラ出血熱、蚊媒介感染症対策、ダニ媒介感染症対策についてホームページに掲載

【その他】

- ・就学時健診における予防接種説明、予防接種履歴確認、接種勧奨（10月～11月）
小学校23校、計24回、1,275名に対し実施。

(1) ロタウイルス感染症予防接種

《目的》

ロタウイルスによる感染症発生の予防

《対象及び実施方法》

対象		実施方法
ロタリックス (1価)	出生6週0日～ 24週0日まで	ロタリックス1.5mlを27日以上の間隔をおいて2回経口投与
ロタテック (5価)	出生6週0日～ 32週0日まで	ロタテック2.0mlを27日以上の間隔をおいて3回経口投与

※令和2年10月1日から定期接種として導入された。

《実績》

令和3年度実施結果

	対象者数(人)	接種者数(人) (1価)	接種者数(人) (5価)	合計	接種率(%)
1回目	807	634	194	828	102.6
2回目	807	638	193	831	103.0
3回目	807	—	198	198	24.5
合計	2,421	1,272	585	1,857	76.7

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を令和3年9月末人口で算出しているため、接種率が100%を超える場合がある。対象者は0歳人口としている。

年度別接種率の推移

年度	接種者数(人)	接種率(%)
令和2年度	707	28.2
令和3年度	1,857	76.7

※ロタウイルスワクチンは令和2年8月1日以降に生まれた方で、かつ10月1日以降の接種から対象としている。

《考察》

ロタウイルス感染症予防接種は、令和2年10月から定期接種となっている。3回目の接種率が24.5%となっているが、ロタリックス(1価)は2回接種となっており、3回目がいないためと考えられる。(3回目接種対象者数について、1価を2回接種し接種完了となっている者の数を除くと、117.2%である。)また、令和3年度の接種率は76.7%(3回目接種者数について、1価を2回接種し接種完了となっている者の数を除いた場合は109.8%)と高い接種率となっている。

(2) B型肝炎予防接種

《目的》

B型肝炎ウイルスによる感染症発生の予防

《対象及び実施方法》

対象		実施方法
1・2回目	1歳未満	B型肝炎(HB)ワクチン0.25mlを27日以上の間隔をおいて2回皮下注射
3回目		初回接種後139日以上の間隔をおいて0.25mlを1回皮下注射

※平成28年10月1日から定期接種として導入された。

《実績》

令和3年度実施結果

	対象者数(人)	接種者数(人)	接種率(%)
1回目	807	837	103.7
2回目	807	843	104.5
3回目	807	784(長期療養1人含む)	97.1
合計	2,421	2,464	101.8

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を令和3年9月末人口で算出しているため、接種率が100%を超える場合がある。

年度別接種率の推移

年度	接種者数(人)	接種率(%)
平成29年度	3,060	103.8
平成30年度	2,977	97.5
令和元年度	2,650	97.8
令和2年度	2,481(長期療養5人含む)	98.8
令和3年度	2,464	101.8

《考察》

今後も高い接種率を維持できるよう、接種勧奨を継続していく。

(3) ヒブ予防接種

《目的》

インフルエンザ菌 b 型による感染症、特に侵襲性の感染症（髄膜炎、敗血症、蜂巣炎、関節炎、喉頭蓋炎、肺炎および骨髄炎）の予防

《対象及び実施方法》

対象		実施方法
初回	生後 2 か月～5 歳未満	ヒブワクチン 0.5ml を 27 日以上の間隔をおいて 3 回皮下注射
追加		初回接種後 7 か月以上の間隔をおいて 0.5ml を 1 回皮下注射

※平成 25 年 4 月に定期接種に位置づけられた。

※接種開始年齢によって接種回数が異なる。

《実績》

令和 2 年度実施結果

	対象者数 (人)	接種者数 (人)	接種率 (%)
1 回目	807	838	103.8
2 回目	807	847	105.0
3 回目	807	831	103.0
4 回目	807	796	98.6
合計	3,228	3,312	102.6

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を令和 3 年 9 月末人口で算出しているため、接種率が 100%を超える場合がある。

年度別接種率の推移

年度	接種者数 (人)	接種率 (%)
平成 29 年度	4,119	104.8
平成 30 年度	4,093	105.0
令和元年度	3,654	101.2
令和 2 年度	3,468	103.6
令和 3 年度	3,312	102.6

《考察》

接種率は常に 100%前後を推移している。今後も適切に接種ができるよう周知啓発を図っていきたい。

(4) 小児用肺炎球菌予防接種

《目的》

肺炎球菌（血清型 1, 3, 4, 5, 6A, 6B, 7F, 9V, 14, 18C, 19A, 19F, 23F）による侵襲性感染症の予防

《対象及び実施方法》

対象		実施方法
初回	生後2か月～5歳未満	小児用肺炎球菌ワクチン0.5mlを27日以上の間隔で3回皮下注射
追加		初回接種後60日以上の間隔でワクチン0.5mlを1回皮下注射

※平成25年4月に定期接種に位置づけられた。

※平成25年11月より使用されるワクチンが7価ワクチンから13価ワクチン（血清型1, 3, 4, 5, 6A, 6B, 7F, 9V, 14, 18C, 19A, 19F, 23F）に変更された。（接種間隔・回数に変更なし）

※接種開始年齢によって接種回数が異なる。

《実績》

令和3年度実施結果

	対象者数（人）	接種者数（人）	接種率（%）
1回目	807	841	104.2
2回目	807	849	105.2
3回目	807	832	103.1
4回目	807	778	96.4
合計	3,228	3,300	102.2

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を令和3年10月末人口で算出しているため、接種率が100%を超える場合がある。

年度別接種率の推移

年度	接種者数（人）	接種率（%）
平成29年度	4,134	105.1
平成30年度	4,092	100.5
令和元年度	3,793	105.0
令和2年度	3,336	99.6
令和3年度	3,300	102.2

《考察》

接種率は100%前後と高い値で推移しており、令和3年度についても同様の傾向にある。今後も適切に接種ができるよう周知啓発を図っていきたい。

- (5) 四種混合（ジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオ）DPT-IPV
 三種混合（ジフテリア、百日せき、破傷風）DPT
 不活化ポリオ予防接種
 二種混合（ジフテリア、破傷風）DT 予防接種

四種混合 DPT-IPV ・ 三種混合 DPT

《目的》

ジフテリア、百日せき、破傷風、急性灰白髄炎の発生及びまん延の予防

《対象及び実施方法》

種別	対象		実施方法
四種混合	第1期 (初回)	生後3か月～90か月未満	沈降精製ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ混合ワクチンを20日以上の間隔をおいて0.5mlを3回皮下注射
	第1期 (追加)		沈降精製ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ混合ワクチンを1期初回完了後6か月以上の間隔をおいて0.5mlを1回皮下注射
三種混合	第1期 (初回)		沈降精製ジフテリア・百日せき・破傷風混合ワクチンを20日以上の間隔をおいて0.5mlを3回皮下注射
	第1期 (追加)		沈降精製ジフテリア・百日せき・破傷風混合ワクチンを1期初回完了後6か月以上の間隔をおいて0.5mlを1回皮下注射

※平成24年11月から四種混合ワクチンが定期予防接種として導入された。

《実績》

令和3年度実施結果

種別	回数	対象者数 (人)	実施者数 (人)	接種率 (%)	
四種混合	第1期	1回	825	847	102.7
		2回	825	841	101.9
		3回	825	825	100.0
		追加	825	870	105.5
	合計	3,300	3,383	102.5	
三種混合	第1期	1回	825	0	—
		2回	825	0	—
		3回	825	0	—
		追加	825	0	—
	合計	3,300	0	—	

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を令和3年9月末人口で算出しているため、接種率が100%を超える場合がある。

年度別接種率の推移（四種混合 1 期合計）

年度	実施者数（人）	接種率（%）
平成 29 年度	4,197	103.5
平成 30 年度	4,305	104.6
令和元年度	3,920	103.6
令和 2 年度	3,455	100.3
令和 3 年度	3,383	102.5

年度別接種率の推移（三種混合 1 期合計）

年度	実施者数（人）	接種率（%）
平成 29 年度	0	—
平成 30 年度	2	0.0
令和元年度	8	0.2
令和 2 年度	2	0.06
令和 3 年度	0	—

《考 察》

例年100%前後の高い接種率を推移しており、令和3年度についても同様の傾向であった。

不活化ポリオ予防接種

《目 的》

急性灰白髄炎（ポリオ）の発生及びまん延の予防

《対象及び実施方法》

対 象		実 施 方 法
第 1 期 (初回)	生後 3 か月～90 か月未満	不活化ポリオワクチンを 20 日以上の間隔をおいて 0.5ml を 3 回皮下注射
第 1 期 (追加)		不活化ポリオワクチンを第 1 期初回完了後 6 か月以上の間隔をおいて 0.5ml を 1 回皮下注射

《実 績》

令和 3 年度実施結果

回数	対象者数（人）	実施者数（人）	接種率（%）
第 1 期	1 回	825	0
	2 回	825	0
	3 回	825	0
	追加	825	1
合計	3,300	1	0.03

年度別接種率の推移

年度	接種者数（人）	接種率（％）
平成 29 年度	138	3.4
平成 30 年度	45	1.1
令和元年度	5	0.1
令和 2 年度	5	0.1
令和 3 年度	1	0.03

《考 察》

平成 24 年 11 月から四種混合ワクチンが定期予防接種として導入されたことにより、不活化ポリオワクチンの接種者は年々減少している。

二種混合（ジフテリア、破傷風）DT 予防接種

《目 的》

ジフテリア、破傷風の発生及びまん延の予防

《対象及び実施方法》

対 象	実 施 方 法
11 歳～13 歳未満	沈降精製ジフテリア、破傷風混合トキソイドワクチン 0.1ml を 1 回皮下注射

《実 績》

令和 3 年度実施結果

種別	対象者数（人）	接種者数（人）	接種率（％）
二種混合 第 2 期	1,396	1,020	73.1

年度別接種率の推移

年度	接種者数(人)	接種率 (%)
平成 29 年度	1,145	80.0
平成 30 年度	1,218	79.2
令和元年度	1,101	73.5
令和 2 年度	1,084	72.4
令和 3 年度	1,020（長期療養 1 人含む）	73.1

《考 察》

二種混合（ジフテリア、破傷風）DT 予防接種

二種混合の接種率は前年度とほぼ同様であった。また、日本小児科学会で推奨していることもあり、百日咳の予防を含めて、二種混合（定期接種）の代わりに三種混合（任意接種）を接種する者が増えている。市で把握している令和 3 年度の三種混合（任意接種）の接種者数は 182 人で、任意接種扱いのため接種率に反映されていないが、二種混合の接種者数に含めると接種率は 86.0%となる。二種混合の接種状況と併せて、これらについても注視していきたい。

(6) BCG 予防接種

《目的》

乳幼児における結核性髄膜炎や粟粒結核などの予防、結核のまん延の予防

《対象及び実施方法》

対 象	実 施 方 法
生後 1 歳未満	乾燥 BCG ワクチンを 1 滴滴下し管針で経皮接種

※佐倉市予防接種委員会での検討結果を踏まえ、免疫不全症が比較的明らかとなる 3 か月からを原則の接種期間としている。

《実績》

令和 3 年度実施結果

対象者数 (人)	接種者数 (人)	接種率 (%)
807	829	102.7

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を令和 3 年 9 月末人口で算出しているため、接種率が 100%を超える場合がある。

年度別接種率の推移

年度	接種者数 (人)	接種率 (%)
平成 29 年度	997	101.4
平成 30 年度	1,055	103.6
令和元年度	911	100.9
令和 2 年度	848	101.3
令和 3 年度	829 (長期療養 1 人含む)	102.7

《考察》

この 5 年間の接種率は、100%を超える高い数値で推移している。引き続き、適切な時期に接種を行えるよう周知啓発を行っていききたい。

(7) 麻しん（はしか）・風しん予防接種

《目的》

麻しん、風しんの発生及びまん延の予防

《対象及び実施方法》

対 象		実 施 方 法
第 1 期	生後 12 か月～24 か月未満	・麻しん風しん混合ワクチン(MR)0.5ml を 1 回皮下注射 <単抗原ワクチン希望の方> ・麻しん単抗原ワクチン 0.5ml を 1 回皮下注射 ・風しん単抗原ワクチン 0.5ml を 1 回皮下注射
第 2 期	5 歳～7 歳未満で小学校就学前の 1 年間	

《実績》

令和 3 年度麻しん風しん実施結果

種別	期別	対象者数 (人)	接種者数 (人)	接種率 (%)
麻しん風しん	第 1 期	878	771	87.8
	第 2 期	1,253	1,198	95.6
	合計	2,131	1,969	92.4
麻しん	第 1 期	878	0	—
	第 2 期	1,253	0	—
	合計	2,131	0	—
風しん	第 1 期	878	0	—
	第 2 期	1,253	0	—
	合計	2,131	0	—

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を第 1 期は令和 3 年 9 月末人口、第 2 期は令和 4 年 3 月末人口で算出しているため、接種率が 100%を超える場合がある。

年度別麻しん風しん接種率の推移 (麻しん風しん混合+麻しん単抗原+風しん単抗原実施者)

年度	期別	接種者数 (人)	接種率 (%)
平成 29 年度	第 1 期	1,134	102.3
	第 2 期	1,249	93.5
平成 30 年度	第 1 期	1,046	98.6
	第 2 期	1,280(長期療養 1 人含む)	94.8
令和元年度	第 1 期	995 (長期療養 1 人含む)	92.8
	第 2 期	1,253 (長期療養 1 人含む)	94.3
令和 2 年度	第 1 期	930 (長期療養 1 人含む)	99.7
	第 2 期	1,233	95.7
令和 3 年度	第 1 期	771	87.8
	第 2 期	1,198	95.6

《考 察》

1期、2期ともに接種率を95%以上にすることが目標とされているが、1期については、目標を下回った。毎月の未接種者に対する勧奨では、対象者は1～7人（ほぼ1～3人）となっており、年間で合計約30人程度であったため、100人を超える未接種者となることは考えにくい。接種者数を9月末の1歳人口としているため、出生数の減少や転出入の影響があると考えられる。今後も、状況を確認しながら、ハガキや電話、第2期については、就学时健診での勧奨を継続し、接種率の向上に努めたい。

(8) 水痘（みずぼうそう）予防接種

《目的》

水痘 - 帯状疱疹ウイルスによる感染症の発生及びまん延の予防

《対象及び実施方法》

対象	実施方法
生後 12 か月から生後 36 か月未満	乾燥弱毒生水痘ワクチン 0.5ml を 2 回皮下注射。 3 月以上の間隔をおく

《実績》

令和 3 年度実施結果

期別	対象者数（人）	接種者数（人）	接種率（%）
1 回目	878	775	88.3
2 回目	878	800（長期療養 1 人含む）	91.1
合計	1,756	1,575（長期療養 1 人含む）	89.7

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を令和 3 年 9 月末の 1 歳人口としている。

年度別接種率の推移

年度	接種者数（人）	接種率（%）
平成 29 年度	2,143	96.7
平成 30 年度	2,096	98.8
令和元年度	1,951	91.0
令和 2 年度	1,864（長期療養 1 人含む）	99.9
令和 3 年度	1,575（長期療養 1 人含む）	89.7

《考察》

昨年度の接種率より 10.2 ポイント減となっており、1 回目の接種に減少がみられている。対象者を令和 3 年 9 月末の 1 歳人口としているので、出生数の減少や、転出入の影響を受けている可能性が考えられる。引き続き、未接種者の状況や傾向を分析し、高い接種率を維持できるよう周知啓発を図っていききたい。

(9) 日本脳炎予防接種

《目的》

日本脳炎の発生の予防

《対象及び実施方法》

対 象		実 施 方 法
第1期 (初回)	生後6か月～90か月未満	日本脳炎ワクチンを6日以上の間隔 をおいて0.5mlを2回皮下注射 (3歳未満の場合、接種量は0.25ml)
第1期 (追加)		初回接種後6か月以上の間隔をおい て0.5mlを1回皮下注射 (3歳未満の場合、接種量は0.25ml)
第2期	9歳～13歳未満	0.5mlを1回皮下注射
特例(実施規則 附則第5条)	平成17年度から平成21年度にかけての積極 的勧奨の差し控えにより接種を受ける機会を 逸した者(平成7年4月2日から平成19年4 月1日生まれ)20歳未満	第1期、第2期の未接種分を接種
特例(実施規則 附則第4条)	平成17年度から平成21年度にかけての積極 的勧奨の差し控えにより接種を受ける機会を 逸した者(平成19年4月2日から平成21年 10月1日生まれ)13歳未満	第1期の未接種分を接種

《実績》

令和3年度実施結果

種別	回数	対象者数(人)	接種者数(人)	接種率(%)
第1期	1回目	1,106	778	70.3
	2回目	1,106	764	69.1
	追加	1,096	460	42.0
第2期		1,400	419	29.9
特 例	第 1 期	1回目		
		2回目	29	
		追加	30	
	第2期	78		
合計		1,569	140	8.9
合計		6,277	2,698 (2,561)	43.0 (40.8)

※特例第1期の対象者数は、平成27年度以降算出方法が示されていない。

※()は、特例第1期(対象者数が示されていない期間)の実施者数を除いて算出したもの。

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を令和3年9月末の3歳、4歳、9歳、18歳(特例措置対象者)の人口で算出しているため、接種率が100%を超えることがある。

接種時の年齢（特例措置分を除く）

	第1期初回			第2期	総計
	1回目	2回目	追加		
0歳	354	306	—		660
1歳	161	176	91		428
2歳	47	49	79		175
3歳	145	142	44		331
4歳	27	35	68		130
5歳	12	17	45		74
6歳	30	35	79		144
7歳	2	4	54		60
9歳				54	54
10歳				72	72
11歳				67	67
12歳				226	226
総計	778	764	460	419	2,421

全接種者 年度別接種率の推移

年度	接種者数(人)	接種率(%)
平成29年度	6,560	95.3
平成30年度	7,058	101.5
令和元年度	6,389	97.0
令和2年度	5,421	86.5
令和3年度	2,698	43.0

第1期 年度別接種率の推移（特例措置を除く）

年度	接種者数(人)	接種率(%)
平成29年度	5,136	133.7
平成30年度	5,070	131.6
令和元年度	4,595	126.6
令和2年度	3,875	115.4
令和3年度	2,002	60.5

第2期 年度別接種率の推移（特例措置を除く）

年度	接種者数(人)	接種率(%)
平成29年度	883	60.2
平成30年度	1,332	89.8
令和元年度	1,205	87.2
令和2年度	1,010	74.9
令和3年度	419	29.9

《考 察》

令和3年度は、日本脳炎ワクチンの供給量が大幅に減少したことにより、優先接種の対象者が設定され、第2期の接種対象者は令和4年度に繰り下げて通知することとなった。また、積極的勧奨の対象を限定するよう国から通知が発出されたため、接種率が昨年度に比べると大幅に低下した。次年度は、ワクチン供給量を鑑みながら通知及び勧奨等を検討していきたい。

(10) 子宮頸がん予防接種（サーバリックス・2価、ガーダシル・4価）

《目的》

サーバリックス

子宮頸がんの原因となる HPV16 型及び 18 型のウイルス感染予防及び前がん病変予防。

ガーダシル

子宮頸がんの原因となる HPV16 型及び 18 型のウイルス感染予防及び前がん病変予防。

尖圭コンジローマや再発性呼吸器乳頭腫症の原因となる 6 型及び 11 型の感染予防。

《対象及び実施方法》

ワクチン名	対象	実施方法
サーバリックス	小学校 6 年生 ～高校 1 年生 の女子	子宮頸がん予防ワクチン 0.5ml を 0・1・6 か月の間隔で 3 回筋肉注射
ガーダシル		子宮頸がん予防ワクチン 0.5ml を 0・2・6 か月の間隔で 3 回筋肉注射

※平成 23 年 4 月から子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業の一環としての接種が行われ、その後、平成 25 年 4 月に定期接種に位置づけられた。

※平成 25 年 6 月 14 日に開催された厚生科学審議会において、「ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛が接種後に特異的にみられたことから、同副反応の発生頻度等がより明らかになるまで、定期接種を積極的に勧奨すべきでない」とされた。引き続き定期接種として無料で受けていただくことは可能。副反応によって健康被害が生じた場合には予防接種法に基づく補償を受けることができる。

※令和 2 年 10 月 9 日、厚生労働省より、対象者等への周知に関する具体的な対応として、対象者等が情報に接する機会を確保し、接種するかどうかについて検討・判断ができるよう、情報提供を行うための資材を対象者へ個別に送付する等の通知があった。

※令和 3 年 11 月、「積極的勧奨の差し控え」を終了すると通知が出され、積極的勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方に対する対応として令和 3 年 12 月、時限的に、従来の定期接種の対象者を超えて接種を行うこと（以下、「キャッチアップ接種」という）とする通知が出された。

《実績》

令和 3 年度実施結果

	対象者数(人)	接種者数(人)	接種率(%)
1 回目	701	255	36.4
2 回目	701	237	33.8
3 回目	701	173	24.7
合計	2,103	665	31.6

年度別接種率の推移

年度	接種者数(人)	接種率(%)
平成 29 年度	3	0.1
平成 30 年度	20	0.9
令和元年度	34	1.6
令和 2 年度	199	9.3
令和 3 年度	665	31.6

《考 察》

令和2年10月9日の国からの通知を受け、令和3年3月、小学6年生から中学3年生を対象に厚生労働省作成のリーフレットを送付し、情報提供を実施した。接種を希望する場合は、保護者から健康管理センターへ連絡してもらい、予診票を発行した。また、令和3年11月26日に積極的勧奨の差し控えが終了とされ、報道等で取り上げられた。これらの結果、昨年度までと比べて接種率が上昇したと考えられる。今後も、適切な情報提供を行い、接種率の向上と接種に関する相談に対応していく。

(11) インフルエンザ予防接種

《目的》

インフルエンザの個人の発病又はその重症化を防止し、併せてこれにより間接的な集団予防を図ることを目的とする。

《対象及び接種方法》

対 象	接 種 方 法
①65 歳以上の者 ②60～65 歳未満で心臓、腎臓、呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する者	インフルエンザ HA ワクチンを 1 回皮下注射

《実績》

令和 3 年度実施結果

対象年齢	対象者数 (人)	接種者数 (人)	接種率 (%)
65 歳以上	56,431	35,276	62.6
60～64 歳		27	
合計	56,431	35,303	62.6

年度別接種率の推移

年度	接種者数 (人)	接種率 (%)
平成 29 年度	27,205	51.5
平成 30 年度	28,667	53.0
令和元年度	31,029	56.5
令和 2 年度	38,031	68.1
令和 3 年度	35,303	62.6

《考 察》

令和 3 年度も新型コロナウイルス感染症の流行状況が継続しており、インフルエンザの発症や重症化を予防するため、インフルエンザ予防接種の需要が高まっていたが、ワクチンの供給に遅れが出たため、接種期限を令和 4 年 1 月末まで延長した。接種率は昨年度より 5.5 ポイント低い、新型コロナウイルス感染症の流行前より高くなっている。

(12) 高齢者肺炎球菌予防接種

《目的》

肺炎球菌（血清型 23 種類）による呼吸器感染症、副鼻腔炎、中耳炎、髄膜炎、敗血症などの予防

《対象及び実施方法》

対象	実施方法
過去に 23 価肺炎球菌莢膜多糖体ワクチンの接種歴のない者で、以下に該当する者 ①令和 3 年 4 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日までの間に 65 歳、70 歳、75 歳、80 歳、85 歳、90 歳、95 歳又は 100 歳となる者 ②60～65 歳未満で心臓、腎臓、呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する者	23 価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン 0.5ml を 1 回筋肉内又は皮下に注射する。

※平成 23 年 4 月から接種費用一部助成を行ってきたが、平成 26 年 10 月 1 日より定期接種に位置づけられた。

《実績》

令和 3 年度実施結果

対象年齢	対象者数（人）	接種者数（人）	接種率（%）
65 歳以上	12,415	1,790	14.4
60～64 歳		0	
合計	12,415	1,790	14.4

年度別接種率の推移

年度	接種者数（人）	接種率（%）	（再掲）65 歳相当の者の接種状況	
			接種者数（人）	接種率（%）
平成 29 年度	5,872	46.3	1,686	61.3
平成 30 年度	5,439	43.7	1,545	60.5
令和元年度	1,876	15.5	1,275	53.8
令和 2 年度	2,020	17.0	1,592	66.9
令和 3 年度	1,790	14.3	1,341	62.8

《考察》

平成 26 年から平成 30 年度までの 5 年間において、65 歳以上で 5 歳刻みの接種対象者に予防接種を実施し、平成 30 年度で制度が終了する予定であった。しかし、特例措置として 5 年間、令和 5 年度まで期間が延長となった。70 歳以上の者については 5 年前に一度対象となっていること、接種対象者は任意接種も含めてこれまでに接種したことがない者であるため、接種率は大きく減少している。

一方、今年度初めて対象となる 65 歳相当の者の接種率は 62.8%となっており、令和元年度を除いて 60%代を推移している。

(13) 風しんの追加的対策（第5期接種）

《目的》

風しんの発生及びまん延の予防

《対象及び実施方法》

対象：昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた男性

抗体検査を実施し、その結果「十分な量の風しんの抗体がない者」を風しんの第5期定期接種の対象とする。

実施方法：予防接種法に基づく定期接種とし、令和元年度から3年間全国無料で実施する。

※令和4年2月16日厚生労働省通知により、令和7年3月末まで、期限の延長が決定

《実績》

令和3年度 抗体検査実施結果

種別	対象者数 (人)	実施件数 (人)	抗体検査の 実施率(%)	結果(人)	陰性率(%)
風しんの抗体検査	17,141	1,500	8.8	陽性：1,111 陰性：389	25.9%

*抗体検査の実施率＝令和3年度中の実施件数／令和3年3月末の昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性の人数（令和元年度と令和2年度に抗体検査をした人数を除く）

令和3年度 予防接種の実施結果

種別	対象者数(人)	接種者数(人)	接種率(%)
麻しん風しん混合ワクチン	389	340	87.4
風しんワクチン		1	0.3
合計	389	341	87.6

*予防接種の接種率＝令和3年度中の実施件数／抗体検査の陰性者

年度別接種率の推移

年度	抗体検査		予防接種	
	実施件数(人)	実施率(%)	接種者数(人)	接種率(%)
令和元年度	2,006	19.9	359	81.0
令和2年度	2,048	10.7	351	79.1
令和3年度	1,500	8.8	341	87.6

《考察》

転入者や令和4年1月末時点で検査を実施していない者を対象に風疹抗体検査の案内文を送付した。本事業の対象者の多くが働く世代であることから、抗体検査の実施に当たっては、事業所健診の機会を利用した実施や、休日・夜間の実施の体制を整備している。令和7年度までの時限措置として事業が継続されるため、対象者への周知、啓発を繰り返し行う等、受検率の向上に努めたい。

2. 予防接種（任意）

(1) おたふくかぜワクチン接種費用助成事業

《目的》

耳の下にある耳下腺の腫れを特徴とするウイルス感染症の発生を予防し、子育て支援の一助とするため接種費用の一部を助成する。

《内容》

①対象

- ・1、2歳児（生後12か月～36か月未満）の市民（接種日時点）

※令和3年4月1日～令和4年3月31日の接種が対象

②実施方法

- ・医療機関にある予診票を使って接種を受け、接種費用を医療機関に支払う
- ・接種後、各保健センターで助成の申請（郵送可）
- ・申請後、後日市から指定口座に助成金を振り込む

③助成金額

3,000円

④周知方法

- ・こうほう佐倉・ホームページに制度の案内を掲載
- ・市内実施医療機関や保健センター等にてポスター掲示、リーフレット配布
- ・1歳1か月時に制度の案内はがきを個別通知

《実績》

令和3年度実施結果

対象者数（人）	助成者数（人）
1,106	616

※対象者数は、令和3年9月末時点の1歳児と2歳児の人口1,820人から、令和2年度助成済の1歳児714人を除いた数。

年度別助成者数の推移

年度	対象者数（人）	助成者数（人）
平成29年度	1,484	826
平成30年度	1,407	792
令和元年度	1,382	781
令和2年度	1,261	754
令和3年度	1,106	616

《考察》

平成26年度より制度が開始され、制度の利用率は56～60%で推移している。平成27年度から継続して行っている個別通知など、今後も様々なかたちでの制度の周知、啓発に努めていく。

(2) 風しんワクチン接種費用助成事業

《目的》

千葉県等が実施主体となり、先天性風しん症候群の発生を未然に防止するため風しん抗体検査を実施している。本事業は千葉県が実施する抗体検査の結果、抗体価が低かった者の風しんワクチン接種を促進し、妊婦への風しん感染防止、先天性風しん症候群の発症防止を図り、公衆衛生の向上及び増進に寄与することを目的とする。

《内容》

①対象

- ・平成 30 年 12 月 25 日以降に県の実施する抗体検査又は、風しん追加的対策による抗体検査を受けた結果が HI 法で 32 倍未満、又は EIA (IgG) 法で 8.0 未満の方で、ワクチン接種を受けた方
- ※令和 3 年 4 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日の接種が対象

②実施方法

- ・医療機関にある予診票を使って接種を受け、接種費用を医療機関に支払う
- ・接種後、各保健センターで助成の申請（郵送可）
- ・申請後、後日市から指定口座に助成金を振り込む

③助成金額

- ・風しんワクチン 3,000 円
- ・麻しん風しん混合 (MR) ワクチン 5,000 円

④周知方法

- ・こうほう佐倉・ホームページに制度の案内を掲載
- ・市内実施医療機関や各保健センター等にてリーフレット配布

《実績》

令和 3 度実施結果

助成者数 (人)
13

年度別助成者の推移

年度	助成者数 (人)
平成 30 年度	10
令和元年度	27
令和 2 年度	12
令和 3 年度	13

《考察》

助成者の男女比は男性 4 人、女性 9 人であった。新型コロナウイルス感染症の流行があり、風しんの感染者数も減少しているため、問い合わせや申請が減少している。

3. 結核予防

(1) 結核検診

根拠法令等	感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）
-------	----------------------------------

《目的》

結核検診を行うことにより、結核患者の発生防止及び結核の蔓延を予防する。

《内容》

① 対象者

市内在住の65歳以上の男女

② 実施方法

ア 集団検診

検診業者に委託し実施

- ・期間 7月2日～3月10日、市内7会場、31日間実施。
- ・費用 300円（税込み）
- ・検診内容 検診車両での、胸部レントゲン間接撮影及び読影を実施。

イ 個別検診

- ・期間 6月1日～12月10日、市内38医療機関で実施。
- ・費用 1,300円（税込み）
- ・検診内容 胸部レントゲン直接撮影及び読影を実施。

③ 周知方法

ア 個人通知

市内在住の65歳以上の男女で、下記に該当するかた

- ・70歳のかた
- ・令和2年度に市の健診(検診)を受診したかた
- ・市の特定健診(健康診査)の対象となるかた
- ・生活保護受給者のかた

イ 「こうほう佐倉」、ホームページ、周知啓発に努めた。

《実績》

① 過去5年間の実施状況

年度	対象者(人)	受診者(人)	受診率(%)
平成29年度	52,350	14,711	28.1
平成30年度	53,650	15,327	28.6
令和元年度	54,690	15,365	28.1
令和2年度	55,590	12,234	22.0
令和3年度	56,302	13,394	23.8

② 胸部レントゲン検診（結核検診）実施結果

	対象者 (人)	受診者 (人)	受診率 (%)	要精密検査 者 (人)	要精密検査率 (%)	精密検査受診 者 (人)	結核発見 数 (人)
集団	56,302	3,644	6.5	60	1.6	40	0
個別		9,750	17.3	276	2.8	215	0
合計	56,302	13,394	23.8	336	2.5	255	0

③ 性別、年代別受診状況及び精密検査実施状況

性別	年代 歳	対象者 人	受診者		要 精 密 検 査 (人)	要精密検査区分										精密検査受診状況	
						結核性		非結核性		腫瘍性		循環器		その他		未 受 診 者 (人)	結核 (人)
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
男性	65～69	5,925	748	12.6	12	0	0.0	5	41.7	6	50.0	0	0.0	1	8.3	1	0
	70～74	7,652	1,792	23.4	43	1	2.3	10	23.3	25	58.1	2	4.7	5	11.6	11	0
	75～79	5,662	1,635	28.9	38	0	0.0	16	42.1	10	26.3	7	18.4	5	13.2	13	0
	80歳以上	6,446	1,639	25.4	71	3	4.2	21	29.6	28	39.4	11	15.5	8	11.3	18	0
	小計	25,685	5,814	22.6	164	4	2.4	52	31.7	69	42.1	20	12.2	19	11.6	43	0
女性	65～69	6,690	1,300	19.4	21	0	0.0	8	38.1	8	38.1	1	4.8	4	19.0	5	0
	70～74	8,607	2,483	28.8	52	2	3.8	10	19.2	26	50.0	9	17.3	5	9.6	10	0
	75～79	6,237	2,047	32.8	53	3	5.7	16	30.2	23	43.4	7	13.2	4	7.5	10	0
	80歳以上	9,083	1,750	19.3	46	2	4.3	11	23.9	21	45.7	7	15.2	4	8.7	13	0
	小計	30,617	7,580	24.8	172	7	4.1	45	26.2	78	45.3	24	14.0	18	10.5	38	0
男性	集団	25,685	1,836	22.6	34	0	0.0	21	61.8	13	38.2	0	0.0	0	0.0	9	0
	個別		3,978		130	4	3.1	31	23.8	56	43.1	20	15.4	19	14.6	34	0
女性	集団	30,617	1,808	24.8	26	1	3.8	9	34.6	11	42.3	0	0.0	5	19.2	11	0
	個別		5,772		146	6	4.1	36	24.7	67	45.9	24	16.4	13	8.9	27	0
合計	56,302	13,394	23.8	336	11	3.3	97	28.9	147	43.8	44	13.1	37	11.0	81	0	

※検診対象者数は、5月末時点での65歳以上の人口とする。

《考 察》

令和3年度は前年度と比較して、受診数は1,160人増加し受診率は1.8%増加した。

今後も高齢者が増加するため、検診の受診者数を増やし、結核患者の発生防止及び結核の蔓延予防をする必要がある。